

# 第21回「ゆづりゆづりの里」職員実践研究発表会



座長・受賞者同士でねぎらい合い、笑顔で締めくくった



介護付き有料老人ホーム「ゆづりゆづりの里」を全国7カ所で運営する一般財団法人日本老人福祉財団（中央区、青木雅人理事長）は2月22日、日本橋公会堂（東京都中央区）にて職員による実践研究発表会を開催した。

1973年に生まれた財団は、今年12月に創立50周年を迎える。浜松・伊豆高原・神戸・湯河原・大阪・佐倉・京都の7カ所でゆづりゆづりの里を運営し、浜松以外は診療所も併設している。各施設と本部は「実践研究」と称し、日々の業務における問題改善に取り組んでいる。2022年度は53件の研究が報告され、事前審査を通過した20件が発表となった。

## 広告

冒頭の挨拶で青木雅人理事長は「創立50周年のロゴマークは、初心のゼロを原点に、人から人へ、ゆづり



白熱する会場

ゆづりゆづりの里から社会へ、過去から未来へと手をつなぎ大きな輪を広げる動きを表している」と述べた。続いて20の研究が発表され、8名の審査員による4つの優秀賞と、参加者の投票による会場賞が表彰された。

優秀賞の1つ「たかが爪、されど爪」足の爪の重要性を知ろう！私たちがサポートします！」では、爪を不潔にすると菌が体内に混入することで痛みが生じ、転倒や歩行障害に至ることを利用者にアピール。診療所内で爪切りのサービスを開

## 優秀賞は「たかが爪、されど爪」ほか

始した結果、爪のケアに関する問い合わせが増えたと発表した。

同じく優秀賞に選ばれた「食事総選挙」は、入居者が施設でのナンバーワンメニューを選ぶ取り組み。投票日1週間前に施設内でポスターを掲示し、当日は投票場を設置し、利用者や職員が選んだ料理とトッピングにシールを貼って投票。1

位になった料理は実際に食堂で提供する。コミュニケーションが弾み、次回取り上げてほしいメニューも提案されたそうだ。

会場賞には「今でしょ！住み替えハッピー大作戦！」が選ばれた。多くの介護施設に共通する、利用者的一般居室から介護居室への引越しがテーマだ。発表者が所属する京都でも、専門職が必要と判断しても、利用者が「まだ早い」とタイミングに差があることが多くあった。そこで「早めに説明し候補者を増やすことで、心の準備を促し、適切なタイミングで住み替

えられるのでは」と仮説を立て、実行に移した。その結果、気持ちに寄り添いながら、タイミングよく住み替えられることができた」と発表した。

審査員による講評で、法政大キャリアデザイン学部・松浦民恵教授は「現場に研究の種がある。日ごろ腹の立ったことや困ったことが社会課題になる」と指摘。山梨大生命環境学部・西久保浩二教授は「日本企業は労働生産性が先進国で最低水準。サービス業でも顕著で、百人百様といった市場

の多様性に応えなければならぬ。そのためには、この発表で見られるような組織内の多様性が必要」と評した。閉会挨拶をした小口明彦常務理事は「日々の業務紹介にすぎない発表もあった」と厳しい論評をしつつも「50周年の本年を良い年にしたい」と締めくくった。

### 【優秀賞】

- たかが爪、されど爪～足の爪の重要性を知ろう！私たちがサポートします！（湯河原・診療所）
- 看取りケアに際して～現場の介護職員ができること（佐倉・ケアサービス課）
- 認知症勉強会～入居者と一緒に学んでいく（湯河原・生活サービス課）
- 食事総選挙～入居者が選ぶ、No.1メニューとは？（大阪・食事サービス課）

### 【会場賞】

- 今でしょ！住み替えハッピー大作戦！～適切なタイミングでの住み替え提案を目指した取り組み（京都・ケアサービス課）



一般財団法人 日本老人福祉財団

03-3662-3611